

漢字は生後十か月から覚えられる

我が国では、明治以来「漢字は難しい」といふ理由で先づ“かな”を学習させ、これを習得させた後に漢字の学習に移ることにしてゐます。既に述べた通りです。然し実際は、概念を有った漢字は幼児が関心を示しますが、表音文字のかなには関心を示しません。記憶の原理は“関心”と“反復”の二つに尽きますが、関心の無い文字の学習はいくら反復しても記憶になりません。「心ここに在らざれば視れども見えず」だからです。

十年前からいくつかの保育園で実験してもらってゐるのですが、生後十か月の子供でも、漢字カードを見せるとこれに関心を示し、じっと凝視し続けるさうです。そこで、目を指して“め”と言ひ、“目”といふカードを見せて“め”と言ひます。

かういふ事を毎日繰返してやってみますと、「目・耳・鼻・手・足……」などの漢字が識別できるやうになります。“目”といふカードを示すと自分の目を指さし、“鼻”といふカードを示すと自分の鼻を指さすのです。勿論「め」とか「はな」とはまだ言へません。然し、漢字の有つ意味は理解してそれぞれが弁別できるのです。だから、「漢字は言葉よりも覚え易い」といふ事が出来ます。

幼児は皆漢字カードが好きで、泣いて愚^{ぐず}図^ずつてゐる時でも、漢字カードを見せると泣き止み、読んでやりますと御機嫌になるといふことです。だから、漢字を覚えるのです。それは努力して覚えるのではありません。ひとりでに覚えられてしまふのです。